



安全安心な連区をめざして

発行日：平成27年2月1日

アルミ缶（アート）を楽しみました

昨年12月13日（土）に南部公民館で、使用後のアルミ缶をアートにする事業があり、子供たち38人が参加しました。



指導に当たった「CAN缶アートG」の方の話

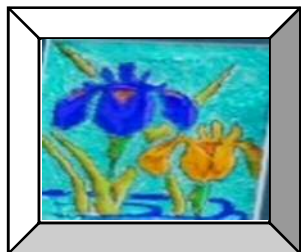
15年前からこの活動を行っています。アルミ缶の素材は、ボーキサイトではほぼ輸入に頼っているのに、その頃ゴミとして捨てられていました。そこで、楽しみながらリサイクル出来る作品作りを考え、完成後は装飾品として額に入れて活用出来るようにしました。牛乳パックの作品は、結局後はゴミになりがちですが、アルミ缶なら作成後2～3年は額に入れて飾り、その後でも資源として出せると考えて始めました。今後も資源を大切にということをお伝えながら、この事業を続けたいと思います。

また、各地からの応募作品を集めた【アルミ缶アート作品展】を来る4月28日～5月6日迄「愛知県芸術文化センター」で行います。



《参加者にインタビューしました》

- ☆ 縁をコツコツ叩いて盛り上がるようにするのが難しかった。でも、色を塗るのは楽しい。
- ☆ 去年の作品は、部屋に飾ってあるので、今年作品をクリスマスツリーの下に飾るつもりです。
- ☆ 羊が上手に出来たと思う。目を大事に描きました。
- ☆ 楽しかった。来年もやりたい。



役員会を12月18日（木）に開催しました



- ① 26年度事業報告について
- ② 26年度会計報告について
- ③ 27年度事業計画について
- ④ 提案事業交付金について
- ⑤ その他として「道の駅構想」「鞆江親水公園の活用方法」「交通安全の啓発方法」等を年末の忙しい時期に話し合いました。

次号予告 各部会よりまとめ、趣味クラブ紹介 等

資源回収推進協議会研修会が開催されました

12月13日（土）南部公民館で、資源回収推進委員の方を対象に研修会が開催され、市環境部清掃対策課から資料に基づいて説明がありました。ゴミの収集と資源回収は、私たちが良い環境で生活する上で大切な事業なので、参加者も熱心に聞き入っていました。



清掃対策課の説明より

① 平成25年に市のリサイクルセンターが完成して、1日に60トンまで処理できます。その結果1年間で鉄とアルミが約5千万円、不燃物と粗大ゴミから資源を分別し、約4千万円の売却益がありました。

燃えるゴミは1日に300トン焼却していますが、焼却炉が傷んできているので、本年度から4年間で約81億円かけて

長寿命化工事に取り掛かっています。

② 現在ゴミ処理関係で年間40億円以上の費用を要しており、市の人口から考えると一人当たり1万円を超えていますので、何とか1万円以内になることを目標に啓発活動を進めています。

③ ゴミ焼却の熱を利用して発電をしています。その電力を施設内で使うほかに余った電力を売っていて、本年度は2億円に達しそうです。しかし、問題は灰の処分です。昨年度は1,5万トン出ましたが、限りある埋立地の事を考えて市内で16%処分し、1万トンは愛知県の施設へ、更に残りを三重県と群馬県に処分をお願いしているのが現状です。

④ 右の表のように、徐々にゴミの量は減少傾向ですが、出来る限り減量へとお願ひしています。「ごみと資源の分け方・出し方辞典」を参考にさせていただいて、きちんと分別し、ゴミ減量に協力をお願いします。（20年度に指定ゴミ分別袋導入）

可燃・不燃・粗大ゴミと資源量		
全 市 （単位トン）		
年度	ゴ ミ	資 源
19	127,173	26,379
21	104,575	26,078
23	104,232	22,124
25	103,698	20,725

福祉講演が開催されました

演題「しょうがい福祉の現状と課題」 一宮市社会福祉協議会朝日支会

〈ありのままの姿で生きるのよ〉

講師 社会福祉法人樫の木福祉会 石田 和夫氏

- ① 樫の木の現状 ② 障害福祉の現状 一宮市の障害者手帳保持者 約18,800人
 ③ 親の思い 「この地区で、元気で暮らしてもらいたい。必要な支援を得て、制約や不自由なくまた寂しく思うことなく、自分なりに暮らしてほしい」 ④ 課題 障害者は一生懸命生きていて、素朴で素直なこと、そして彼らの特性を理解し支援していただき、地域交流事業が広がってほしい。

【年中行事紹介 除夜の鐘・初詣・左義長（1月14日撮影）】



ゴーン

本郷 光専寺



初詣 外山 神明社



左義長 西萩原 天神神社